



IDF PRESS RELEASE

IDFプレスリリース

2019年6月26日、プラハ発

IDF/ISO 分析ウィーク 2019 での議題における乳製品分析規格 Dairy analytical standards on the agenda at the IDF/ISO Analytical Week 2019

一流の分析専門家が、酪農乳業セクター内の最新の技巧的および技術的な発見に関する見解を交換します。

今週、乳製品分析の分野で働く人々にとって重要なカレンダー上のイベントである2019年のIDF/ISO分析ウィークが終了しました。このイベントには、22カ国から130人以上の代表が出席し、AOACインターナショナル、ICAR、USPなど、他の規格開発組織の代表も参加しました。

今週の会議では、乳製品中の糖を測定するための国際規格など、今後12か月以内に発行される8つの新規および改訂版IDF/ISO規格を含む、幅広いトピックにおいて大きな進捗がありました。他の事例は、生乳中の抗生物質を迅速に検出するためのバリデーションプロセスの調和です。専門家は、また、乳業や集乳センターのエンドユーザーが牛乳の品質と安全性を確保するために役立つQ&A文書を作成中です。

熟成ハードチーズやセミハードチーズの品質に影響を与える汚染源であるクロストリジウム属の菌数測定法や核磁気共鳴技術による乳製品中の脂肪の迅速定量など、将来の規格開発に関する新しいトピックも特定されました。

Steve Holroyd氏、IDF分析法標準化ステアリンググループ委員長のコメント：

「4 日間に渡り 25 以上の IDF/ISO アクションチームおよび 6 つの常設委員会が開催され、分析ウィークは国際的な科学関係者や分析機器企業とのネットワーク、そして IDF/ISO 国際規格および手引きの開発を進捗させる絶好の機会を提供します。」

これらの会議は、なぜ重要なのでしょうか？

標準化された分析方法は不可欠のものであり、安全で高品質の乳製品の製造と取り引きを可能にします。それらは相互理解のための根拠を提供し、国内または国際的な規制への準拠を評価するために使用され、日常的な検査および管理目的に広く適用されています。それらは、産業、当局、研究者、製造業者といった酪農乳業チェーンのステークホルダー間の自発的な協力の成果として、比較可能な結果を与えるために、同じ言語、理解および測定方法を伝えます。

この会議への IDF の関わり合いは、相互の理解と国際的な酪農乳業セクターへの信頼を築き、貿易を円滑にするためには欠かすことのできない、食品の安全性、乳乳製品の品質および組成に関する規格の確立に対する継続的な取り組みです。

「IDF は、酪農乳業セクターの規制環境を継続的に改善し、ISO などの主要な国際機関やインフルエンサーと積極的に関わり、知識のギャップを特定し、解決策の提案の優先順位を設定し、合意を模索することを約束します。」

Aurélie Dubois-Lozier 氏、IDF 科学・規格計画マネージャーのコメントによる

来年の IDF/ISO 分析ウィークは、2020 年 4 月 6～9 日に中国・北京で開催の予定です。

完

翻訳：J I D F 事務局

編者注：仮訳の正確性、完全性、有用性等についてはいかなる保証をするものではありません。参考資料として扱い、内容に疑義が生じた場合は英文の原文をご確認ください。